

11 洪水地図を使ってまちの危険を知ろう！

市町村が作成・公表している「洪水地図（洪水ハザードマップ）」を活用し、自分たちのまちの洪水の危険性を把握しましょう。



洪水地図を用いて、まちの危険性を把握します。



時間軸

実施内容

対象人数★5～40人（1グループ5～6人）

1 導入（5分）

説明文【例】

「自分たちの住むまちの洪水地図を見て、大雨が降ったときどこが浸水しやすいかを考えましょう。」



洪水地図の目的を説明

2 まちの洪水危険の把握（25分）

- 1 まず、グループ内でリーダーを決めます。
- 2 自分たちのまちを含む洪水地図をグループ毎に1枚ずつ配ります。
- 3 洪水地図を見て、自分たちのまちにどのような洪水危険があるか気づいたことを、各自にふせん（メモ）に書かせます。
- 4 次に、洪水地図で自分の家と避難所の位置を確認させます。
- 5 大雨のとき、避難路はどの程度浸水するか、マンホール、水路がないかなど、気づいた点を白地図に各自書き込ませます。
- 6 各自気づいた内容を発表しあい、その結果を模造紙にまとめさせます。
- 7 リーダーに、全員の前で模造紙に書き込んだ内容を発表させます。



自宅や避難路を確認してみる



グループごとに発表

3 まとめ（10分）

指導者は、各グループの発表をふまえて、洪水地図からどのようなことが明らかになったか、講評を行います。

指導ポイント

市町村が洪水地図を作成・公表していたら、これを積極的に活用するよう指導します。

自主防災組織の関わり方

洪水地図を活用した災害危険の把握と話し合いのときに立ち会い、大雨のたびに水がよくたまる場所や、指定済みの避難所・避難路などについて助言をお願いします。

準備するもの（目安）

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 洪水地図	グループ数	当該区域を選定、拡大コピー
<input type="checkbox"/> ふせん（メモ）	参加者の数	
<input type="checkbox"/> 模造紙、油性ペン	グループ数	
<input type="checkbox"/> 白地図	参加者の数	洪水地図と同じ範囲

家庭への持ち帰り

ここで学んだことを、保護者の方に話してもらうように指導してください。自分たちのまちについて、学んだ危険箇所や避難所・避難路などを、家族でも話し合うよう指導してください。

このメニューに関する+αの知識

- 1 洪水地図は各自治体のホームページなどに掲載されているので、積極的に活用しましょう。
- 2 マンホールや排水溝を調べておくのは、雨水が排水しきれずに逆流するためマンホールのふたが浮き上がったり、道路沿いの排水溝が増水で確認できなくなり、このため避難の途中で被害にあう事例があるためです。
- 3 早めの避難が重要ですが、万が一避難が遅れた場合は、自宅の2階などに避難するほうがよい場合もあることを知っておいてください。

ひと工夫

- 1 洪水地図を十分活用できるよう、同じ地区の人どうしてグループ分けを行います。
- 2 自分の家や避難所・避難路が見分けられる程度の大きさに洪水地図を拡大コピーしたり、切り出すなどして、作業用のマップを用意しましょう。概ね、1/5000以下の縮尺とするのが適当です。
- 3 白地図を用意するときは、洪水地図と同じ区域を含め、縮尺や大きさをそろえておきましょう。まちの洪水危険を書き込んだ白地図は、そのまま自分たちのまちの独自の洪水地図になります。

注意事項

- 1 洪水地図は、ふだんは起こらないような条件で洪水が予想される区域を地図にしたものであり、これまでに記録がなくても起こることがあります。また、洪水地図とは別の場所で洪水が起こることがあります。
- 2 洪水地図のほか、土砂災害や火山災害・地震災害に関する地図を作成している市町村もありますので、これらを活用すると自分のまちの様々な災害の危険性を知ることができます。
- 3 油性ペンを使用する場合は、換気に気をつけてください。